

# 「職能意識」を喚起

## 在学中に二級建築士取得

東北工業大学（仙台市、渡邊浩文学長）の建築学部開設から間もなく2年が経過する。工学部からの独立を機に見直した柔軟な受験科目が

より幅広い人材を集め、充実した資格取得サポート体制が学生の「職能意識」を早い段階から喚起している。これらの取り組みが奏功し、2021年度は2年生5人を含む学生9人が在学中に2級建築士資格試験に合格した。建築学科開設55年で8000人以上の卒業生を建設業界に輩出してきた同大学の石井敏副学長兼建築学部長・教授に、教育現場の今を聞いた。



石井敏副学長兼建築学部長・教授

工学分野にとどまらない役割と学際領域の多様化を見据え、教育環境を充実させるために北関東以北で初めて設置

「135人」に拡大した。入学試験では数学を必須としながらも、国語や外国語、物理、化学、生物などを選択科目とすることで、普通高校で学んだ学生も受験しやすい環境を整備した。

普通科出身や女子学生が増え、学部開設以降の入学者は2年続けて定員を上回る約160人が入学した」と効果を強調する。さらに「以前よりもさまざまな経験・教育を経た多様な学生が集うことで、より創造性や柔軟な思考が養いやすくなり、進路においても多様化が進むのではないか」と期待を寄せる。

入学後も不得意科目を高校教員の経験者が個別支援する環境と体制を完備しているため、学生の質については「幅広く受け入れても高い水準を維持している」と語る。

また、「もともと本学部に入学者は明確な将来像を持ち、目的意識が高かったが、東日本大震災を経験して『卒業後は地域社会に貢献すること』を希望し、さまざまな資格取得に挑戦することが増えた」と学生の意識の変化を推察する。

同大学では、資格取得の難易度に応じた奨励金制度や外

部資格学校と連携した講座を開設したほか、受講料の一部を負担している。一方、20年度の建築士法改正に伴い、2級建築士は工業高校で指定科目を修めれば実務経験がなくても受験可能となった。こうした法改正や大学のサポートなどが追い風となり、在学生は大学の講義や課題などと両立させて、9人が合格を勝ち取った。また、普通高校出身の6人も宅建士を取得した。このうち、2級に合格した今野楓雅さん（2年生）は「在学中に資格を取得することが、就職活動の強みになる」と話している。

今なお国内で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、教育の場にも大きな影響を与えた。建築学部では、作業などの体験や教員による直接指導、学生相互による学び合いが有効な「演習」「設

計」などの科目は、相互理解促進が期待できる対面式で実施している。予習・復習などで理解・知識が深まる法規関連などの座学系科目にはオンライン（ライブやオンデマンド）形式を採用するなど、内容に応じて使い分ける「ハイブリッド講義」を展開している。適切な感染症対策を講じつつ、今後も対面と非対面を「7対3」の割合で実施していく構えだ。

このほか、コロナ禍で中断した台湾・中原大学建築学科との国際交流（交換留学）は、オンラインで卒業設計について担当学生・教員が相互に評価するプログラムとして再開した。学生アンケートなどでも絶えず実施しており、結果を授業運営等に速やかに反映させるなど、「これからも環境の変化に合わせて柔軟な対応を続けていきたい」と語る。

